

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

18

(開始ページ / Start Page)

64

(終了ページ / End Page)

64

(発行年 / Year)

1967-10-20

編集後記

▼いろいろな面で新しい脱皮が必要などころにきているのが、現在のわたしたちの『日本文学誌要』だ、と思います。国文学会常任委員会や機関誌編集委員会でも、いつも議論はそこに集中します。

本年度の編集を担当したわたしたちも、一年こっきりの改変ではない、長期展望の上に立っての『日本文学誌要』の新しい性格を作り出して、と話し合っています。急に開花し、また急にしぼんでいく一輪咲きの花のようにあでやかにではないが、次々と親しみぶかい顔つきの実のなる花を開く、花季の長い花の育種に専念したいのです。

第一に、顔を外から内へ向けかえる。学生会員が欠かさず参考にしてくださるものにした。第二に、内部に相互批評の活発な行き交いをもし出す。単なる業績発表の場には終わらせないで、まず『講座』欄を開きました。次号からだんだんと、乞応援。(益田勝美) ▼編集委員会に名を連ねることすでに四年目になりました。大した仕事もせず、いたずらに名を連ねているのみでありました。ただただ誤植をなくす、という一事に専念してきま

したが、本になったトタンに何十という誤植がみつきり、ガックリのしどろしどろでした。まことに校正恐るべしです。

ところで、過去三年間に発行された誌要を並べてみますと、かなりの変貌を示してきているように思われます。その変わり方こそ、実は問題もある訳ですが、前編集委員会の成果であったと思います。もちろん、その評価はさまざまであろうとは思いますが……。

本号からは、編集委員四年生として、仕事をすすめてまいります。皆さんの指導をうけて、ナイ知恵をしぼりながら頑張つてゆくつもりです。わたしたちの『日本文学誌要』が少しでも良くなってゆくように。諸兄弟の御鞭撻をお願いしておきます。(片桐 登)

▼新しい編集スタッフによる十八号をみなさんにおめにかけることになった。スタッフがかわったからと云って、内容一新というわけではない。が、徐々にかわっていくであろうことは、わかっていただけだと思う。そのかわりかたが問題ではあるが。

編集子としては、つねによい原稿をと思っている。『誌要』の向上が、原稿いかにかかっているのは云うをまたない。会員諸氏が日頃の研究の成果を、どしどし寄せてくださ

らんことを願っている。

また、こんなものをのせてほしいという注文でも結構。いわゆる、アイデア買います。である。われらスタッフがいると知恵をしぼってはいれるものの、完全とはいえない。広い裾野から思わぬ玉が、ころがり出て来るのを期待したいものである。もちろん、われらとて、おさおさおこたりなく、あいつとめまするが……。(田中俊夫)

一九六七年一月二〇日発行

日本文学誌要 第一八号

編集 法政大学国文学会

印刷 東京都中央区銀座東三ノ七

東銀座印刷出版株式会社
電話〇三(542)三九四一、五

発行 東京都千代田区富士見町二

ノ一七法政大学大学院内

法政大学国文学会

電話代表〇三(262)二三五一
振替 東京 六九四三